「十字架に上げられた方」

ヨハネによる福音書３章 13～21 節

３章１節以下のところは主イエスとファイサイ派に属するニコデモとの対話の最後のところです。ニコデモは最初に主イエスが言われた言葉の意味が分かりませんでした。「はっきり言っておく。人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない(3:3)。」とのお言葉です。彼はユダヤ人議会の議員であり、教師でもありましたが、人が新たに生まれる…という意味が分からなかったのです。

そのようなニコデモに対して、主イエスは言葉を続けられます。それが「天から降って来た者、すなわち人の子のほかには、天に上った者はだれもいない。そして、モーセが荒れ野で蛇を上げたように、人の子も上げられねばならない。」とのお言葉です。何が言われているのでしょうか。ここで、モーセが蛇を上げたと言われていますけれども、このことは民数記 21 章９節に記されています。エジプトを出たイスラエルの民は、その旅路の過酷さに、モーセに対して、したがって神に対して、「なぜ、我らをエジプトから導き上ったのですか。荒れ野で死なせるためですか」とつぶやいたのです。このため、神は、炎の蛇を民に送られ、蛇は民をかみ、多くの人が死ぬこととなりました。

しかし民が、自らの罪を認め、赦しを請い、モーセも民のために祈ったので、神はモーセに「あなたは炎の蛇を造り、旗竿の先に掲げよ。蛇にかまれた者がそれを見上げれば、命を得る」と言われます。モーセは言われたとおり炎の蛇を造り、旗竿の先に掲げました。そして蛇にかまれた人が、青銅で造られたその蛇を仰ぐと命を得たのです。そのように「人の子も上げられねばならない。それは、信じる者が皆、人の子によって永遠の命を得るためである」と主イエスはニコデモに言われたのであります。

人の子が上げられるとは、人となられた独り子が十字架に上げられるということにほかなりません。人の子は裁く者の手に渡され十字架の苦しみを極みまで負われて息を引き取られました。そうです。主イエスは罪ある者に代わって十字架を負われ、その打たれた傷によってわたしたちは癒され、新たにされるのです。さらに神はこの救いの恵みが揺るぎないものであることを、独り子を死から命へと引き上げる復活によって示されました。それゆえにわたしたち、十字架に上げられた方を仰ぎ、罪の贖いの恵みに与り、永遠の命に与る希望を新たにすると共に、この信仰の望みを告げる者として導いてくださいと祈り求めようではありませんか。　　（久野真一郎）